

# 稲作だより ~第10号 登熟期・適期刈取 編

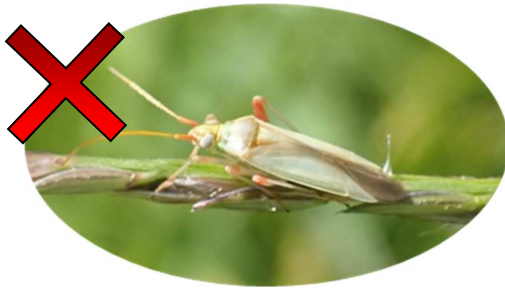
尾花沢・大石田版

## 1. 現在の生育状況：平年より出穂は2日早く、登熟は例年並み。

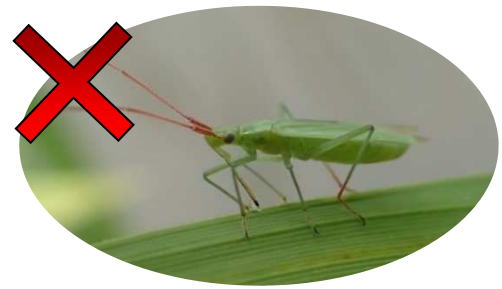
- (1) 出穂前から高温で経過したため、管内の出穂期は2日早くなりました。
- (2) 8月20日時点の登熟は例年並みです。ただし、今後も高温が続く見込みのため、登熟が早くなる可能性があります。早めにコンバイン等の準備を行いましょう。

## 2. 8月中の草刈休止と保管防除で斑点米カメムシ類対策！

- (1) 斑点米カメムシ類は柔らかい状態の穂を加害します。水田内に呼び込まないように8月は草刈りを休止しましょう。
- (2) 8月19~21日に病虫害防除所で行ったすくい取り調査の結果、村山地域における斑点米カメムシ類の発生確認地点率は23.1%で平年並みでした。  
基本防除終了後に斑点米カメムシ類の発生が確認された圃場は、補完防除を行いましょう。この際、農薬の収穫前使用日数を厳守し、使用回数を超えないように薬剤を選択しましょう。



アカスジカスミカメ  
体長 4~5mm 前後

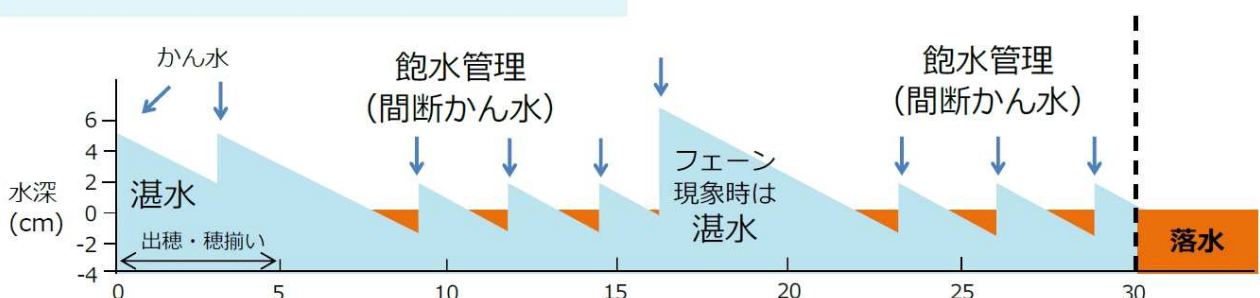


アカヒゲホソミドリカスミカメ  
体長 5~6mm 前後

## 3. 品質確保のため、最後の水管理

- (1) 高温による品質低下防止のため、下記の図を参考に気温の低い朝夕の水の入れ替えや飽水管理、こまめな間断かん水を行い、水田の水温、地温を下げる水管理を徹底しましょう。  
**水のためっぱなしは、夜間の地温が下がらないだけでなく、根へのダメージが大きくなります！**
- (2) 早期落水は品質低下のもとです。完全落水は、出穂30日後を目安としましょう。  
※粘質土壌で乾きにくい田では出穂後25日、砂質系土壌では35日後を目安に落水

高温時の水管理のイメージ（出穂期以降）



## 4. 適期内刈取を徹底 ～必ず、圃場で登熟状況を確認！～

- (1) 刈り遅れると胴割粒や薄茶米が急増し、品質低下が心配されます。
- (2) 早く出穂した穂の籾水分が 21%より下がると胴割粒が増加しやすいため、出穂後の積算温度を目安に、実際に圃場に入り、青籾歩合や籾水分を確認しましょう。

積算気温から見た刈取適期の目安【尾花沢・大石田】

品種名	平坦部		中山間～山間部		青籾歩合	積算温度の目安
	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期		
ヒメノモチ	7月30日	9月2日～9月5日	8月1日	9月5日～9月9日	15%	900℃～1000℃
あきたこまち	8月2日	9月6日～9月11日	8月4日	9月9日～9月15日	15%	900℃～1050℃
山形95号	8月4日	9月8日～9月18日	8月6日	9月11日～9月22日	20%	900℃～1150℃
ひとめぼれ	8月4日	9月8日～9月14日	8月6日	9月11日～9月17日	15%	900℃～1050℃
はえぬぎ	8月5日	9月9日～9月20日	8月7日	9月12日～9月24日	20%	900℃～1150℃
雪若丸	8月5日	9月9日～9月20日			20%	900℃～1150℃
つや姫	8月12日	9月20日～9月30日			15%	950℃～1150℃

- ※ 尾花沢アメダスの平均気温による。8月26日まで本年値、9月20日まで予測値、以降は平年値を使用。中山間～山間部は、アメダス地点から離れていることから、積算気温の目安より1日遅らせている。
- ※ 記載の出穂期はピーク時で、実際は期間に幅があり、刈取適期はこれにより前後する。
- ※ 出穂後高温で推移したため、全品種で積算温度 50℃前倒しを適期としている。

刈取り前に確認を！

- ① 青籾歩合 15～20%
- ② 籾水分 25%以下

※ 青籾歩合：1穂の籾のうち緑色のまま(黄化していない)の籾数の割合



◎倒伏や病虫害(いもち病、稲こうじ病、斑点米カメムシ類)により品質低下の恐れがある圃場は、別刈りを徹底しましょう。

◎ 秋の農作業事故防止運動が始まります (9月1日～10月31日)

刈払い機、コンバイン等の点検は、必ずエンジンを停止してから！  
コンバインでの田んぼへの進入、退出時は特に注意しましょう！

「北村山稲作情報」LINEはこちらから

